２０１１年度　立教 SFR 国際会議助成成果報告書（Ａ，Ｂ，Ｃ）

１．　会議概要

会　議　名	和文	日独修好 150 周年記念国際会議「日独文化交流史と異文化理解」
	欧文	Internationales Kolloquium zum Jubiläum der 150-jährigen japanisch-deutschen Freundschaft „Geschichte der japanisch-deutschen Kulturbeziehung und interkulturelles Verstehen“
主　　催		立教大学文学部文学科ドイツ文学専修
共　　催		なし
後　　援		なし
開催責任者		所属　文学部 氏名　高　橋　輝　暁　　印
運営事務局		事務担当者 氏名　大　田　浩　司
開催期間		２０１１年　９　月　　１７　日から　　２０１１年　９　月　　１９　日まで
開催場所		立教大学池袋キャンパス（太刀川記念館）
参加者数※１		学内　　１５　名 学外　国内から招聘　　９　名 　　海外から招聘　　１８　名　　６ ヵ国　　合計　　３８　名　　７ヵ国
公開講演会等参加者数※２		①　２０１１年　９月　１７日　　４３名　　７ヵ国 ②　２０１１年　９月　１７日　　４０名　　７ヵ国 ③　２０１１年　９月　１７日　　４５名　　７ヵ国

開催日程		午前	午後	夜
	第１日 9 月 17 日	10:00～12:30 10:00 受付開始 10:30～12:30 講演と討論 冒頭講演, 1～2	14:00～17:10 講演と討論 3～7 16:20～16:50 コーヒーブレイク	20:00～22:00 自由討論会
	第２日 9 月 18 日	10:15～12:30 10:15 受付開始 10:30～12 :30 講演と討論 8～10	14:00～16:00 講演と討論 11～13	20:00～22:00 自由討論会
	第３日 9 月 19 日	10:15～12:30 10:15 受付開始 10:30～12 :30 講演と討論 14～16	14:00～16:00 講演と討論 17 ～19 16:00～17:10　総括談話	18:30～20:30 パーティ

開催経費総額	予算額　　2,600,000 円	執行額　　2,248,408 円

※　１　参加者とは、会議において講演、パネラー、コメンテイター等の活動を伴う者をいう。
※　２　一般に公開された講演会等に聴講のために参加した者。講演者、パネラー等は除く。所要経費が６０万円以上の会議で参加者がのべ１００人を超える場合は、参加者名簿を添付すること。

２．　開催趣旨概要

日本とプロイセンの間に日普条約が1861年に締結されてから今年で150年になる。そこで日独修好150周年を記念して主に立教大学の海外協定校から日本およびドイツに関する研究者を招き，協定校間の国際的研究連携を強化するとともに，日本学者とドイツ学者との学際的共同研究の推進を目指して本国際会議を開催した。冒頭講演を含む20本の講演および初日と2日目の夕食後に開催された自由討論会により，日独の文化関係の歴史を検証しつつ，それをヨーロッパと東アジアとの関係の中に位置づけて捉え直し，日独と日欧の異文化理解ならびに異文化コミュニケーションの問題を具体的に検討した。ドイツ，スペイン，トルコ，タイ，台湾，韓国から日本学者やドイツ学者の招待参加とともに，日本側からは立教関係の研究者のほか，学外の研究者の参加を得て，活溌な討論となった。会議の言語は招待参加者の共通語として主にドイツ語を用い，討論では必要に応じて日本語も併用した。自由討論会では，各講演後の討論で論じきれなかった問題を参加者の関心に応じて自由に議論した。

３．　国際会議の成果概要・今後の展望等

本国際会議の成果と研究の将来展望については，主として下記の４点に要約できる。

１．日独文化交流史の再評価と再検討

日独の文化交流史に関して，日本をアジアにおけるドイツとの交流史に位置づけ，ドイツをヨーロッパのアジア理解の歴史に位置づけて，日本の鎖国時代にもアジアやヨーロッパとの文化交流が活溌に行われていたこと，19 世紀以来のアジアの近代化においてたとえばタイと日本との間にみられる共通点（近代化による独立の維持）や相違点（日本の軍事力による帝国主義とタイの軍事に頼らない巧みな外交政策）など，また，ドイツ文化受容の観点から見た日韓関係の歴史，さらに一般雑誌に掲載された日本に関する図版による 19 世紀のドイツにおける日本像など新たな視点や研究領域が開拓された。

２．日独間の異文化理解と異文化コミュニケーションの理論の構築

日独のドイツ文化研究者と日本文化研究者が，それぞれの文化的位置取りを活かして，双方のこれまでの研究成果について現代の立場から論じ合うことにより，日独文化交流と異文化理解の将来的可能性が切りひらかれた。とりわけ東日本大震災と福島原発事故をめぐるドイツのメディア報道やドイツ政府の対応においてドイツにおける日本理解の浅さと問題点が露呈したことが指摘され，日独文化交流史の事例研究とあわせて，異文化理解と文化交流のあり方の分析ならびに具体的方法の議論が深まった。

３．日本のドイツ文化研究とドイツの日本学との共同研究の実現によるパラダイムの転換

日本のドイツ文化研究とドイツの日本研究とを付き合わせ，関連づけることによって，日本のゲルマニスティクとドイツの日本学に共通のフィールドとテーマの形成が可能になった。さらにそこにアジアでは韓国，台湾，タイの研究者を，ヨーロッパではスペインやトルコの研究者を加えて，日独関係をアジアおよびヨーロッパの文脈で捉える研究の枠組が形成された。

４．海外の大学との交流協定を活かした国際共同研究の実績と可能性

本学の海外協定校から研究者を招聘することで，立教大学がコアとなり，新たな国際共同研究の実績をあげるとともに，交流協定を活かした国際共同研究の意義を再確認することになった。

今後は海外の大学との交流協定を活かした国際会議を積極的に実施することで，国際研究交流の幅を広げるとともに，研究面において立教大学の国際的知名度を高める効果も期待できるだろう。

なお，上記の成果を刊行するために，ドイツ文学専修の紀要《ASPEKT》の増刊号として国際会議特別号を編集中で，2012 年前半の完成を予定している。

４．会議の構成

（１） 学内参加者

氏　　名	所属・職名	会議における活動	内　　訳
FELDT, Michael	文学部・教授	司会・討論	文学部　９名
井出　万秀	文学部・教授	講演・司会・討論	異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部　２名
前田　良三	文学部・教授	講演・司会・討論	ﾗﾝｹﾞｰｼﾞｾﾝﾀｰ　４名
副島　博彦	文学部・教授	司会・討論	名
高橋　輝暁	文学部・教授	講演・司会・討論・主催責任者	名
佐々木一也	文学部・教授	司会・討論	名
荒野　泰典	文学部・教授	講演・討論	名
久保田　浩	文学部・准教授	講演・討論	名
大田　浩司	文学部・助教	討論・事務局	名
新野　守広	異文化ｺﾐ学部・教授	司会・討論	名
浜崎　桂子	異文化ｺﾐ学部・准教授	討論	名
五十嵐　豊	ﾗﾝｹﾞｰｼﾞｾﾝﾀｰ・教育講師	司会・討論	その他（　　）
由比俊行	ﾗﾝｹﾞｰｼﾞｾﾝﾀｰ・教育講師	司会・討論	
MUELENZ, Katharina	ﾗﾝｹﾞｰｼﾞｾﾝﾀｰ・教育講師	司会・討論	
吉村暁子	ﾗﾝｹﾞｰｼﾞｾﾝﾀｰ・教育講師	討論	計　１５　名

変更内容（氏名、不参加／追加の別）
林志津江（教育講師退任のため学外参加者に追加）須藤温子（不参加）
由比俊行（追加），吉村暁子（追加）

（２） 学外参加者（国内、国外）

氏　　名	国名・所属・職名	会議における活動	内　　訳
HORRES, Robert	ﾄﾞｲﾂ･ﾃｭｰﾋﾞﾝｹﾞﾝ大学・教授	講演・討論	国名　名
PARRA MEMBRIVES, Eva	ｽﾍﾟｲﾝ･ｾﾋﾞｨﾘﾔ大学・教授	講演・討論	日本　９名
SALOMON, Harald	ﾄﾞｲﾂ･フンボルト大学・講師	講演・討論	ドイツ　７名
ÖZTÜRK, Ali Osman	ﾄﾙｺ･ｾﾙｼﾞｭｸ大学・教授	講演・討論	スペイン　１名
ZÖLLNER, Reinhard	ﾄﾞｲﾂ･ボンﾝ大学・教授	講演・討論	トルコ　１名
KINSKI, Michael	ﾄﾞｲﾂ･ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ大学・教授	講演・討論	韓国　３名
WIRTH, Uwe	ﾄﾞｲﾂ･ｷﾞｰｾﾝ大学・教授	講演・討論	台湾　１名
ESCHBACH-SZABO, Viktoria	ﾄﾞｲﾂ･ﾃｭｰﾋﾞﾝｹﾞﾝ大学・教授	司会・討論	タイ　１名
WATANANGURA, Pornsan	ﾀｲ･ﾁｭｰﾗﾛﾝｺﾝ大学・教授	講演・討論	計　７ヵ国　２３名
AHN, Mun-Yeong	韓国・中南大学・教授	講演・討論	
AHN, Sam-Huan	韓国・ソウル大学・教授	講演・討論	
KIM, Kyunghee	韓国・延世大学・教授	講演・討論	
LEE, Shu-Ping Lee	台湾・天主教輔仁大学・教授	講演・討論	
MOSER von FILSECK, Karin	ﾄﾞｲﾂ･ﾃｭｰﾋﾞﾝｹﾞﾝ大学・ﾄﾞｲﾂ=東ｱｼﾞｱ-フォーラム事務局長代理	司会・討論	
古澤ゆう子	日本・一橋大学・教授	講演・討論	
美留町義雄	日本・大東文化大学・准教授	講演・討論	
臼井隆一郎	日本・帝京大学・教授	講演・討論	
林　志津江	日本・立教女学院短大・兼任講師	司会・討論	
吉田　治代	日本・新潟大学・准教授	討論	
PEKAR, Thomas	日本・学習院大学・教授	司会・討論	
SCHEIFFELE , Eberhard	日本・早稲田大学・教授	司会・討論	
MANDERLARTZ, Michael	日本・明治大学・教授	司会・討論	
KUKLINSKI, Andrea	日本・大東文化大学・兼任講師	司会・討論	

変更内容（氏名、不参加／追加の別）
（不参加）【海外】ANTONI, Kraus; ASSMANN, Heinz-Dieter; BASSNER, Frank; WERTHEIMER, Jürgen; CHANG, San-Lii; BOCKEN, Inigo　【国内】渡辺　学; 中　直一; COULMAS, Florian
（追加）【海外】HORRES, Robert; PARRA MEMBRIVES, Eva; ÖZTÜRK, Ali Osman; WIRTH, Uwe; ESCHBACH-SZABO, Viktoria; LEE, Shu-Ping Lee; MOSER von FILSECK, Karin　【国内】美留町 義雄; 林　志津江; PEKAR, Thomas; SCHEIFFELE, Eberhard; MANDERLARTZ, Michael; KUKLINSKI, Andrea